

アメリカ合衆国大統領 バラク・H・オバマ様

米国の臨界前核実験に被爆地ナガサキから強く抗議する

昨日からの報道等によると、米国が今年9月15日午後5時35分、ネバダ州の核実験場で「バックス」と名づけられた臨界前核実験を実施していたことが明らかになりました。

核と人類は共存できない。それは、ヒロシマ・ナガサキをはじめ原水爆の惨禍を受けた経験にもとづく論理であり、被爆から65年を経てもなお原爆後障害に苦しむ被爆者の叫びです。

私たちは、いかなる国のいかなる核実験、核兵器保有も許すことはできません。被爆地・ナガサキから激しい怒りをもって抗議するとともに、計画されている実験も含めすべての核実験を即時に中止し、核実験場を閉鎖することを要求します。

昨年4月、オバマ大統領はプラハ演説で「核兵器なき世界の実現」を訴え、世界の人々に感動を与えました。これまでの米国の核政策の転換と、停滞していた核軍縮の流れを加速させるものとして、ノーベル平和賞が与えられ、今年5月のNPT核拡散防止条約再検討会議での64項目におよぶ核廃絶へむけた合意へとつながったことを忘れてはなりません。

ダブルスタンダード政策を続けることは、核兵器使用のハードルがますます低くなり、他の核保有国を刺激するとともに、核拡散＝新たな核保有国をつくり出す要因になることを自覚すべきです。

私たちは、核兵器や軍事力に依存する「安全保障」から、対話と共生による「平和保障」の確立へむけ、米国が「道義的責任」を果たすようあらためて要求します。

2010年10月13日

原水爆禁止長崎県民会議

長崎県被爆者手帳友の会

長崎県平和運動センター被爆者連絡協議会

長崎県被爆二世の会

長崎県平和運動センター

【連絡先】長崎市桜町9-6 TEL095-823-7281

2010年10月13日

内閣総理大臣 菅 直人 様

原水爆禁止長崎県民会議

会長代行 明石佳成

長崎県被爆者手帳友の会

会長 井原東洋一

長崎県平和運動センター被爆者連絡協議会

議長 川野浩一

長崎県被爆二世の会

会長 丸尾育朗

長崎県平和運動センター

議長 明石佳成

米国の臨界前核実験の中止を求める要請文

昨日からの報道等によると、米国が今年9月15日午後5時35分、ネバダ州の核実験場で「バッカス」と名づけられた臨界前核実験を実施していたことが明らかになりました。米国エネルギー省傘下の国家核安全保障局（NNSA）の資料で明らかになったもので、高性能爆薬で衝撃波を与えたプルトニウムの動作を調べ、2011年9月までの会計年度中にあと2回の臨界前核実験を実施することも報じられています。米国の臨界前核実験は2006年8月30日以来24回目となり、オバマ政権下では初めてとなります。

私たちは、「別紙」の通り在日米国大使館経由でオバマ大統領あてに抗議文を送付したところです。

オバマ大統領が原爆投下国としての道義的責任を謳い、核兵器なき世界の実現を訴える一方で、保有核兵器を使用するための実験を継続しています。核爆発をとまなわないといえども、核兵器の信頼と技術を維持するための実験であり、明確に核実験と位置づけるべきではないでしょうか。

被爆国・日本の首相として毅然たる態度で、臨界前核実験など核兵器の維持と使用へむけた政策に異議を唱えるとともに、「非核三原則」を法制化して日本の立場を明確にすることが必要です。

貴職が臨界前を含むいかなる国の核実験に対しても強く抗議するとともに、核兵器の一日も早い廃絶へむけた役割を果たすよう、被爆地より要請いたします。